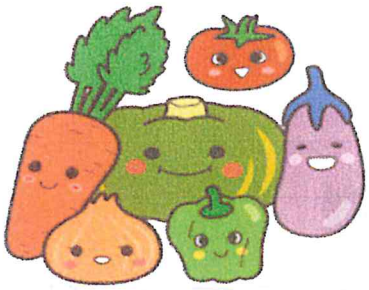
子どもたちの未来のために、緑ゆたかな矢切の耕地を残しましょう！



斜面林をはじめ豊かな緑に囲まれ、サギやキジ、オオタカなど貴重な動物が生息する矢切にお住まいの皆さま、時折訪れる緑地の景観に心いやされている市民の皆さま、松戸の貴重なたからもの矢切の耕地を、広大で豊かな農地のまま未来に残しませんか？
巨大な物流センターや資材置き場という名の産廃施設は、この緑の耕地に似合いません。

東葛野菜の生産地である矢切の優良農地は、地権者の私的な財産であるものの、「農地・緑地として保全する」と決められている公的な市民の財産でもあります。地球規模の気候変動危機が心配される上に、紛争や災害による食糧危機も他人ごとではない今、広大な緑地はかけがえのない財産です。

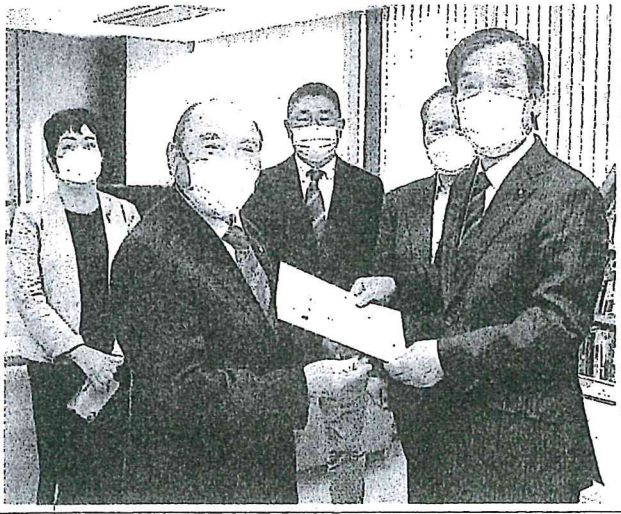
後継者もいないし、農業を続けていく気はないという地主さんの土地は、松戸市が仲立ちをして農業希望者に貸したり、売ったりして「農地は農地のままで」保全してほしいと思いませんか？
松戸市は市民の財産の保全に力を注いでください。同じお気持ちの方々、裏面の市長宛ての署名をぜひ広げてください。

矢切の耕地を未来につなげる会
事務局　松戸市松戸 1879-24 ほくとビル 5F
連絡先　070-4295-9225 佐藤

昨年１１月に朝日新聞、千葉日報、東京新聞で報道されました。

矢切耕地 保全を要望

市民団体、松戸市に



矢切耕地の保全を求める要望書を本郷谷市長（右）に提出する佐藤代表＝松戸市

松戸市の江戸川沿いの耕地「矢切耕地」の農地保全の必要性を訴える活動を展開する「矢切の耕地を未来につなげる会」の佐藤清代表らは15日、本郷谷健次市長と面会し、同耕地に民間事業者が計画する物流施設の建設を止めるよう求める要望書を、１０３６人分の署名を添え手渡した。

佐藤代表らは「矢切耕地は松戸の宝。粗末にする訳にはいかない」。「（地元の土地所有者は）賛成、反対で分断されている。解消するためにも市としての方針を示して」と求めた。

これに対し、本郷谷市長は「１００％を超える農地。どうするかは重要な課題。議論しコンセンサス（共通認識）を得ながら進める」と述べた。

同会は、矢切耕地で物流施設計画が浮上したことを受け、２０１８年９月に発足集会を開いた。以後、栽培が盛んな矢切ねぎの収穫や田植え、稲刈りなどの農業体験、学習会を開催。署名はこの間のイベントなどで集まった。

市は現在、本年度末を目標に「市都市計画マスタープラン」を改定する検討を進めている。次期プランは22年度から20年間の都市計画行政の基本となる。矢切耕地は市街化調整区域で現在は一定の開発規制があるが、物流施設を計画する民間事業者側は将来の規制緩和を見据えているとみられる。

千葉日報（21.11.17）